



人生 楽ありゃ 苦もあるさ

校長 山崎 勝則

2学期スタートを前にして、「人生 楽ありゃ 苦もあるさ」という歌が頭の中に湧いてきました。このフレーズを聴いて、三つ葉葵の印籠が思い浮かぶ人は私と同じ昭和生まれの人だけでしょ。

みなさんは2学期が始まって楽しみ？それとも苦しい？ 自分が中学生の時を思い返すと「苦しい」という思いが強かったかなと思います。原因はわかっています、夏休み中の怠惰な生活から脱却できないこと、夏休みの宿題提出が間に合っていないこと、本当にダメな中学生だったと今になって反省しています。

さて、この時代劇『水戸黄門』のオープニング曲「あゝ 人生に涙あり」の歌詞を思い返すと、実に深いと感じさせられます。

1番の歌詞には「楽を得るためには苦しみを乗り越える必要がある」という意味があるのではないかと思います。2番には「自分が苦しみから逃れあきらめていても周り是一緒になってあきらめてくれない」という意味があるのではないのでしょうか。



昨今の子どもたちを取り巻く環境は、目の前の苦勞を取り除き、「できた」という楽しみだけを与えているような状況を感じます。そんな中で苦を乗り越えたときに得られる真の楽は得られるのだろうか、義務教育を終えようとしている中学生が目の前の薄っぺらい壁すらもぶち破れないのではないだろうかという不安がぬぐい切れません。

子どもたちの前に壁が立ちはだかったとき、その壁を取り除いたり、壁に対する文句を言ったりするだけの大人ではなく、どうしたら壁をぶち破れるのか一緒に考え、壁に跳ね返されたなら支え、ときには壁をよける道を教えてあげられる大人になりたいものです。

さあ、2学期は「運動会」や「学習成果発表会」などの大きな壁が目白押し、そして絶対に忘れてはいけないことは3年の進路決定という中学校の最後で最大の壁が待ち構えています。

自分の道をふみしめて～」

泣くのがいやならさあ歩け～♪

ちなみに、3番4番の歌詞も深くていいですよ。

でも、この年になったからそう感じるのかなあ…

右画像の白髪と額の広さが年齢を物語っています

(この夏休み中の旅行より)

どこかわかりますか？あちこち葵の御紋でいっぱいでした

